

こころに残る先輩からのひと言 「医学商業雑誌の定期購読」 —easy access—

平成10年卒 松本直樹



私が医局を退局してから5年ほどが経ちます。現在は父（松本常嘉，S43卒）と共に埼玉県本庄市にある松本産婦人科医院で開業医として診療しています。私は比較的早く大学附属病院を離れましたので先輩方との接点は主に若い頃になりますが，多くの良き先輩方に恵まれ，そしてさまざまな助言を頂きました。その全てを表すことはできませんが，頂いた助言のひとつひとつが今でも日々の診療や医師活動の礎になっています。この場を借りて感謝の意を表します。

そのような助言の中で，特に大きな影響を与えたと思うひと言が「医学商業雑誌を一誌定期購読したほうが良い」という旨の助言でした。これは私が研修医のころに現主任教授の岡本愛光先生から頂いたものです。書棚に数年分を揃え並べておけば，素早く調べたりするのに役立つという趣旨でした。定期購読となると年間4万円ほどの出費になりますが，なるほどと思い早速申し込みました。実際のところ届いてすぐにそれを読むということはあまりありませんでしたが，主に医局の自分のデスクやその近くに背表紙が見える形で並べておきました。もともと不勉強だった私でさえ，見慣れぬ疾患に遭遇した際にはその背表紙を眺めることで，関連する情報を簡単に得ることができるようになりました。

日々の学習や研究を阻害する大きな要因のひとつに，アクセスの困難（利用しにくさ）が挙げられます。アクセスの困難が取り除かれるだけで最低限の学習を行うことができるようになります。現在では産婦人科診療ガイドラインを始めとして，エビデンスの詰まったガイドラインやその他の書籍に恵まれています。基本的な診療内容はそれらを参照するだけで把握可能かもしれませんが，とはいえそれらだけではまだ網羅しきれていない疾患や病態も多数あります。日本の医学商業雑誌と欧米のメジャーなそれらとを比較すれば，クオリティーに関して残念ながらまだまだ大きな差があります。それでも最近のレビューや解説等は，適切な文献を引用しevidence-basedに記述されているものが多くなりました。私だけでなく多くの日本人産婦人科医師にとって，英文のものよりも和文の商業雑誌ははるかに読みやすく価値のあるものだと思います。多くの知識を頭にたたきこむだけでなく，情報元に対してeasy accessな環境にしておくことも医師としての能力のひとつでしょう。

このようにeasy accessを可能にしておくことは学習や研究等を行う上でとても重要です。文献の検索と収集については，個人では限界がありますが，大学所属の方であれば大学図書館（学術情報センター）のリモートアクセスサービスが利用できます。さらにパソコン等による情報管理・処理作業についてもeasy accessな環境が望ましいでしょう。私はもっぱらWindowsを使用していますが，手元で素早く作業ができるようにその環境を整備しています（写真）。まずパソコンの性能はより良い方がストレスになりません。ディスプレイも大型なものやデュアルディスプレイを使用しています。プリンタ複合機のほか，ドキュメントスキャナ（富士通ScanSnap等）も利用しています。ソフトウェアに関してMicrosoft Officeはもちろんです，その他の頻用しているものを紹介します。PDF処理ソフト（スキャナ付属のAdobe Acrobat），画像・動画処理ソフト（Adobe Photoshop Elements+Premiere Elements），データベースソフト（FileMaker Pro），文献管理ソフト（Endnote），統計処理ソフト（JMP，EZR）等です。Endnoteは並行輸

入品であれば安価です。EZRはフリーソフトです。これらのソフトウェアは価格と機能の点で、個人レベルで使いやすく必要十分なものだと思います。

ここに示したようなeasy accessが、今後の皆様の診療や医師活動の発展のための参考になれば幸いに思います。



写真 深谷赤十字病院に勤務していたころの私の医局デスク